

メンズのスーツを作るテーラーは多いですが、レディースはほとんどありません。知り合いのテーラーに、どうしてレディースを作らないのか理由を聞いたところ、「女性はオーダーが変わってしまう。生地を選んだ後、縫い上がって完成すると、イメージと違うと言われることがある」。それ以来、レディースは展開しなくなったようです。需要はあるにも関わらず、レディースのスーツを実際に作ってくれる場所は少ないのが現実です。

これまで10着ほどスーツやジャケットをオーダーしましたが、今回ヴァルカナイズ・ロンドンで仕立てるのは初めてです。定番のグレーのスーツは持っていません

でしたので、地味にならず、汎用性と軽やかさのあるプリンス・オブ・ウエールズ・チェックを探していました。スワッチを見ると、私には少し大柄すぎるのが気になっていたのですがスタッフさんからの助言をいただき、他のプリンス・オブ・ウエールズを選ぶことに。一般的には無骨で男性的なイメージがありますが、色柄に奥行きと光沢があり、上品な点が気に入りました。このグレーは、着こなしのアレンジが利きます。例えば、インナーはシャツでなく、襟元にスカーフを巻いたり、派手目のジュエリーをつけるとぐっと華やかな装いに。

また、黒で合わせればモードな雰囲気にも着こなせます。カジュアルなシーンから、会食や講演会の登壇



オーダースーツ16万5000円〜

BE SPOKEN

オーダースーツは自由になれる

ヴァルカナイズ・ロンドンの隠れた人気サービスである、女性のパターンオーダーについて英国文化をはじめファッションに造詣の深い中野香織さんにお話しを伺いました。

などフォーマルなシーンまで着回せるのも、オーセンティックなグレーというカラーならではの。また表生地は落ち着いた雰囲気なので、裏地には大きな花柄が入った明るい生地をセレクトしました。チラッと見ると華やきが増します。地味なビジネス顔のスーツになるかな



と一抹の不安がありました(笑)、完成したスーツはスワッチのイメージ以上。袖を通すとカーディガンのように軽い着心地で動きやすい。仮縫いなして仕上がるので、時間のない方にもおすすめ。

一般的にブランドでスーツを購入する場合、レディースではブランドによる特徴が様々に異なりますし、トレンドにも左右されます。オーダーはそうしたブランドのしがらみから自由になれる。主体はあくまで着用している人にあるというのが魅力です。

中野香織

服飾史家 / 著作家

イギリス文化を起点としてダンディズム史、ファッション史、ラグジュアリー領域へと研究範囲を広げてきた独立研究者。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に「『イノベーター』で読むアパレル全史」(日本実業出版社)、共著に「新・ラグジュアリー 文化が生み出す経済10の真義」(クロスメディア)ほか多数。